

地域再生計画（地方創生道整備推進交付金）中間評価調書

都道府県名	愛知県	事業実施主体	岡崎市	地域再生計画名	人にやさしく、安全で元気に暮らせるまちづくり計画
計画期間	平成27年度～平成31年度	評価責任者	岡崎市総合政策部長 山本 公徳		

	指標		基準値		中間目標値		最終目標値		中間評価	中間目標値の実現状況に関する評価	
			基準年度	年度	中間実績	基準年度					
①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標 1	市民満足度の向上（徒歩者を対象にしたアンケートにおける満足割合の増加）	52.0%	H25	—	—	56.0%	H32	-	—	
	指標 2	アクセス向上（災害拠点病院への移動時間の短縮）	平均37分	H26	—	—	平均34分	H32	-	—	
	指標 3	耐震性の問題のある橋梁の減（耐震補強が必要な重要橋梁数）	9橋	H26	7橋	H29	7橋	0橋	H31	○	中間目標値である2橋を達成することができた。長寿命化点検結果により早急な修繕が必要と判定された吹矢橋と遠行橋について、長寿命化修繕工事と合わせて耐震補強工事を行った。
	指標 4	林業の振興（間伐等森林施業面積の促進）	395ha/年	H25	450ha/年	H29	318ha	450ha/年	H31	×	特別措置を適用して行う林道整備は一定の進捗が得られたが、本指標である間伐施業面積の目標値達成には至らなかった。その要因として、世代替わり等による森林所有者の山離れや、販路が十分でないことなど考えられる。
	指標 5	防災意識の向上（防災講習参加による意識向上が図られた市民の増）	23,203人	H25	32,300人	H29	75,634人	38,900人	H31	○	市が実施している各種防災対策推進事業により、市民ひとりひとりの危機意識が向上し、目標値を大きく上回る結果となった。また、地震、台風、局地的豪雨等の災害が各地で発生している状況も、市民が防災に関心を寄せる契機となっている。
②地域再生計画に記載した数値目標以外の波及効果の実現状況	指標 1	特別措置を適用して行う市道整備のうち、歩道整備における透水性舗装整備延長	0	H26	—	H29	3.0km	5.2km	H31	-	歩道整備の際、透水性舗装を行ったことで排水機能が高まり、雨天時の通行者の安全確保に資するものと見込まれる。また、地中への浸透により下段「その他事業」に記載の「総合雨水対策」への一助になるとともに、雨天後の夏場晴天時は路面温度や歩道気温が抑制される効果も期待される。
③事業の進捗状況	事業名	整備量（その他の事業では取組内容）		事業の進捗状況に関する評価							
		計画	最終実績見込み								
特別措置を適用して行う事業	市道整備事業（整備延長）	13.1km	7.5km	最終実績見込みは7.5km(歩道整備5.2km・拡幅整備2.1km・橋りょう耐震0.2km)だが、H29年度末では4.1km(歩道整備3.0km・拡幅整備1.1km橋りょう耐震0.1km)の整備が完了した。歩道整備については、歩道の拡幅や段差解消により、高齢者や障がい者にとっての利便性が高まることで、指標1「市民満足度の向上」が期待できる。一方、用地買収を伴う拡幅整備(道路新設を含む)は、用地交渉が難航するなどにより進捗に遅れが生じているが、相対的に歩道整備を重点化して取り組んだ。							
	林道整備事業（整備延長）	2.5km	1.7km	最終実績見込みは1.7kmだが、H29年度末では1.3kmの整備が完了した。林道整備により森林へのアクセス改善が図られ、指標4「林業の振興」に資することを期待しているが、他要因により目標値達成(間伐等森林施業面積の促進)にむけた効果が表れていない。							
その他の事業	地域医療体制の充実	災害拠点病院である市民病院の救急体制の機能強化を図る。	岡崎市民病院の救急棟の建設を行い、H27.9.1より供用開始した。また、外来再編工事を平成28年度までに行い、診療科の拡張・拡充を行った。								
	総合雨水対策	浸水被害や増加傾向にある局所的集中豪雨への対策案を検討し治水対策を進める	「岡崎市総合雨水対策計画」をH28.7に策定した。これに基づき、止水板等設置工事費補助制度、雨水浸透ます支給制度、浸水深表示施設設置、道路・公園・公共施設浸透化等を実施したことで、浸水被害の軽減、並びに防災意識の向上を図り、災害に強いまちづくりに寄与した。								
	防災都市づくり計画	防災を明確に意識した都市づくりの基本方針や具体的施策を定める『防災都市づくり計画』を策定	国の示す「防災都市づくり計画策定指針」に基づき、地域防災計画と都市計画マスタープランをつなぐものとして「岡崎市防災都市づくり計画(案)」を作成した。自助・共助・公助の役割分担のもとで、ソフト・ハード対策を組み合わせた災害に強い空間づくりを図るもの。H30年度には、パブリックコメントを実施して、策定・公表する予定。								
	防災対策の推進	地域防災計画に基づき、地域防災力向上のため、地域の自主防災活動に必要な資機材等の整備に対する補助を行う	町内会や学区による防災資機材の整備や防災倉庫の設置に対し、H27～H29の3カ年で271件39,024千円の補助金を交付し、地域の防災機能を強化、防災意識の向上、災害による被害の防止及び軽減を図った。H30年度には、地域防災指導員制度を創設し、自主防災組織の強化と、地域住民を巻き込んだ自助・共助による減災活動の活性化を図っている。								
	水とみどりの森の駅事業	地域団体、NPO、自然保護団体等が、教育活動、イベント、観察会等を通じて自然保護活動を行う	自主的な自然保護活動へのきっかけづくりや、活動の活性化を図るため、H27～H29の3カ年で計816回の各活動が行われ、延21,912人の参加が得られた。								
	木材利用の促進	地元産木材の利用を推進するため、岡崎市産材を利用した住居専用の戸建住宅の建築に対して補助を行う	市内森林整備の推進や林業、木材業及び建築業などの地域産業活性化を図るため、H27～H29の3カ年で24件2,299千円の補助金を交付した。								
計画外で独自に実施した事業	藤田保健衛生大学病院開院に向けた道路網整備	平成32年4月開院予定に伴い、区画整理等、周辺道路の整備を実施	開院予定に伴い、周辺で実施している区画整理や県道等のインフラ整備を総合的に推進してきた。今後もこれを継続することで、市内南部交通網の利便性が向上するとともに、開院後は地域医療体制の充実に大きな効果を発揮することが期待される。								
	作業道の開設・改良事業の促進	林業者の組織団体又は林業者に対して、作業道開設・改良事業に伴う補助を行う	林道整備事業の投資効果を高めるため、H27～H29の3カ年で11,680千円の補助金を交付し、作業道9,016mを開設、4,877mを改良した。								
④評価方法	評価委員会を開催し、中間目標値の実現状況に関する評価・検討等を行った。										
⑤中間評価の公表方法	岡崎市企画課のホームページに掲載										
⑥計画全体の総合評価	市道拡幅整備においては、用地取得の難航や財政状況などにより最終目標達成は厳しい状況にあるが、市民満足度向上への寄与度が高いと考えられる歩道整備を重点化してきた。また、橋梁耐震化についても、長寿命化点検結果により早急な修繕が必要と判定された橋の耐震化を行うなど、各指標の向上や投資効果の最大化を意識した事業展開を進めてきた。その一方で、林道整備を進めているものの林業振興での実績が思うように伸びていない。これについては、別に行う林業振興施策と連携して投資効果を高められるような対策が必要な状況となっている。										
⑦今後の方針等	現状では整備量について、最終実績が計画値を下回る見込みにあるが、成果を現す各指標を高めていくことを主眼に投資効果の最大化を目指し、引き続きの事業進捗を図っていく。なお、橋梁耐震化については、その重要性に比して最終実績見込みが十分でない。進捗を図るには設計等の準備も必要であるため、計画期間内に全てを完了させることは難しいが、より早期の完了を目指し取組みを加速させる。また、林業の振興にあたっては、林道整備を引き続き推進するとともに、指標目標値達成に向けての追加的取組みとして、別途交付金を活用しつつ木材製品の新規利用開拓や販路の拡大を図るためのソフト事業を検討する。										